

事務事業名		綾里簡易水道施設整備事業			☒ 実施計画登載事業		☒ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	01 潤いに満ちた快適な都市環境の創造			事業期間		予算科目				
	施策名	02 良好な生活空間の創造					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	02 上水道・簡易水道の整備					16	01	01	02	02
根拠法令											
所属	部課名	都市整備部 簡易水道事業所			☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 (開始 年度～) ☒ 期間限定複数年度 【計画期間】 27 年度～ 31 年度 全体計画欄の総投入量を記入						
	係名	簡易水道係	電話	0192-27-3111							
			内線	202							
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ)					
綾里簡易水道は、昭和36年に創設され、昭和55年に給水区域及び給水人口の拡張を行い、平成3年に宮野簡易水道と野々前簡易水道を統合し、現在に至っている。綾里地区浄水設備計画において、綾里川ダム完成後に水源を綾里川表流水からダム直接取水に変更する予定であったが、ダム水の水質分析の結果、ダムの低水層においてマンガン濃度が高く、その対策が必要であることが判明した。 その対策のため岩手県土木部では、ダム貯水池の環境対策のために平成12年から水質調査を実施するとともに、平成16年度からは高濃度酸素溶解方式による水質浄化事業を行っている。 平成22年度に岩手県では、ダムに流入する水等を詳細に水質調査を行い、マンガン対策についての基本的な情報を検討したが、抜本的な対策はマンガン除去装置の設置であるとの判断に至った。このことにより、発展計画において平成27年度から5年計画での建設を予定している。マンガン除去装置建設までは、岩手県が水質浄化事業を継続して行い、水道水の安全で安定した供給を図るものである。						総投入量 (千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金		
									都道府県支出金		
									地方債	349,000	
									その他		
									一般財源		
									事業費計 (A)	349,000	
人件費	正規職員従事人数	2									
	延べ業務時間	12,808									
	人件費計 (B)	51,232									
	トータルコスト(A) + (B)	400,232									

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称	単位
前年度実績(前年度に行った主な活動)	なし	ア	
今年度計画(今年度に計画している主な活動)	なし	イ	
		ウ	
対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	綾里浄水場施設	対象指標(対象の大きさを表す指標)	
		名称	単位
		カ 計画1日最大給水量	m ³
		キ 計画給水人口	人
		ク	
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	原水のマンガン濃度を低下させる。	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
		名称	単位
		サ マンガン濃度	mg/リットル
		シ	
		ス	
結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)	安全な水が安定して供給される		

(2) 総事業費・指標等の推移			年度	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (実績)	
			単位							
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円						
		都道府県支出金	千 円							
		地方債	千 円							
		その他	千 円							
		一般財源	千 円							
		事業費計 (A)	千 円	0	0	0	0	0	0	
	人件費	正規職員従事人数	人							
		延べ業務時間	時 間							
		人件費計 (B)	千 円	0	0	0	0	0	0	
		トータルコスト(A) + (B)	千 円	0	0	0	0	0	0	
活動指標	ア									
	イ									
	ウ									
対象指標	カ	m³				1,050	1,050	1,050		
	キ	人				3,150	3,150	3,150		
	ク									
成果指標	サ	mg/ℓ								
	シ									
	ス									

事務事業ID	1157	事務事業名	綾里簡易水道施設整備事業
--------	------	-------	--------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 平成12年に綾里川ダム水の水質分析から、ダムの低水層においてマンガン濃度が高いことが、判明したことから検討が始まった。	
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？ 現在、岩手県土木部で、ダム貯水池の水質浄化事業を行っており、今後も継続して水質浄化事業を進めていく必要がある。	
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ 特にない。	

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある [理由]  ☒ 結びついている [理由]  簡易水道施設の整備は、良質な水を安定的に供給することにつながり、その結果、潤いに満ちた快適な都市環境の創造に結びつく。	3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある [理由]  ☒ 妥当である [理由]  上水道の整備は、水道法で定められた地方公共団体の義務であり妥当である。	3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある [理由]  ☒ 適切である [理由]  対象とした「計画1日最大給水量」及び「計画給水人口」は、現在の綾里浄水場の水道施設の規模を示す基本的な単位であり適切である。 意図については、マンガン濃度の低下がこの事業の意図であるので適切である。	3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
有効性 評価	成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある [理由]  ☒ 向上余地がない [理由]  平成13年度に綾里浄水場において実施したマンガン除去実証実験結果に基づき、目標とするマンガン濃度を設定していることから、成果の向上余地はない。	3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 [理由]  ☒ 影響有 [その内容]  事業を廃止・休止すれば、ダム湖の水質が改善されない場合、渇水期にはマンガン濃度の高い原水により、綾里浄水場膜ろ過設備の膜閉塞による断水の恐れがある。もし、膜閉塞にいたらなかったとしても、水道水質基準を上回る色度の高い水が供給される。	3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある  (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる [理由]  ☐ 統廃合・連携ができない [理由]  ライフラインに関わる極めて公共性の高い事業であるため他に類似事業はなく、現状では他の方法は考えられない。 ☒ 他に手段がない [理由] 	3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
効率性 評価	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある [理由]  ☒ 削減余地がない [理由]  特殊な浄水処理方法であり、事業費を削減することは難しい。	3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある [理由]  ☒ 削減余地がない [理由]  施設整備に必要な設計業務等は専門業者への委託で対応していく予定である。それ以外の業務は市の必要最小限の担当者で対応していることから削減は難しい。	3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある [理由]  ☒ 公平・公正である [理由]  簡易水道使用者からは給水負担金及び水道料金を徴収しており、負担は適正である。	3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映

事務事業ID	1157	事務事業名	綾里簡易水道施設整備事業
--------	------	-------	--------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 現在は、岩手県の水質浄化事業の結果を見極める段階であり、マンガン除去対策等の対応は、今後の水質浄化事業での水質改善結果を判断しながら検討することとする。																					
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり											
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容)		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																							

(職 名) 原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	簡易水道事業所長
-------	----------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																							
(2) 2次評価者としての評価結果	(3) 評価結果の根拠と理由 ダム側の水質浄化事業の結果待ちの状況にある。																						
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり											
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 今後のダム水質浄化事業での水質改善結果から以後の対応を判断する。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
